

『 ひこにゃんサモアへ行く 』

学校名・名前	:	神戸市立鈴蘭台小学校・藤田 利恵子
実践教科	:	総合的な学習
指導時数	:	7時間
対象学年	:	小学4年生 対象人数 : 80人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

「百聞は一見に如かず」を実感した海外研修であった。サモアの学校での実践授業では、ごみの分別について伝えようとしたが、日本のごみの焼却処理は経済的に豊かな国ならではの手法であることで、まずあたりかまわず散乱するごみを「拾う」ことから始めないといけないことがわかり、愕然とした。単に技術を導入すればいいだけでなく、その国の歴史的背景や文化・慣習なども考慮してその国に応じた支援が必要だと知った。テーマを意識し視点を絞って現地へ行くことにより、様々なサモアを知ることができた。校種の違う仲間と毎日研修を積み重ね、自分自身の視野を広げられたのは大きな財産になった。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ・開発途上国は、みな貧困にあえぎ、幸せを感じられない人々が多くいるだろうと思っていた。
- ・開発途上国への支援について、子ども達の自発的な意志を確立するのは大変難しいのではないだろうかと考えていた。
- ・暑くて、湿度が高く生活環境は悪いのではないかと思っていた。

AFTER

- ・開発途上国は精神的に「豊かではない」とは限らないということ。とても幸せそうな人々の笑顔にふれ「幸せは自分の心が決める」ことを実感した。
- ・天井や床・壁に穴が開くホールで、ひざを重ね合わせながら、体が触れあってもけんかもせずに集うサモアの児童の姿に、物質的な「豊かさ」が「幸せ」や「平和」に結びつくとは限らないことを感じ取った。
- ・サモアの人々に環境破壊への警笛を鳴らし、日本の技術を導入するなど、支援をする日本人の活躍を知った。
- ・サモアの人々の生活やものの考え方・人との接し方などに学ぶべきこと、教えられたことがたくさんあった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

○日本とサモアとの関わりを知り、広い視野で自分たちの可能性や取り組むべきことを探り、実践していこうとする意欲を育てる。

○児童は、社会科の「くらしとごみ」の学習で、1学期から神戸市の「ごみの6分別」や3Rについてしっかり学び、保護者に紹介活動をするなど、様々な人々へ伝える内容や方法を考えてきた。美しいサモアが抱えるごみ事情を知ることによって問題意識を持ち、自分達ができることを考えさせていくきっかけにしたい。サモアを身近に感じ、地球市民である自分達の問題としてとらえさせるために、サモアの様子や文化・食文化を学び、サモアをよく知ることからごみ事情へとつなげていくことにした。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 サモアってどんな国？	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアのイメージを持つ。 ・サモアの概要を知る。 ・「サモア？日本？どっち？」カードを通して日本との違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎パワーポイント ・地図 ・写真 ◎サモア？日本？カード ◎ワークシート
2時限目 サモアのお友達	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ先の子どもの様子や、サモアの学校での児童生徒の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ホームステイ先の写真 ◎Primary/Secondary を訪問した様子の映像 ◎ワークシート
3時限目 サモアの文化	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアものランゲージで、「何をするもの」なのかグループで考え、発表する。 ・訪問地の写真や現地から持ち帰ったものを見ながら、サモアの伝統的な儀式等文化について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎写真 ◎カバの儀式の映像 ◎ワークシート
4時限目 サモアの食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージで、「何に使われるものか」グループで考え発表する。 ・伝統的なウム料理や、食材、その調理法について知る。 ・食を中心に無駄のないサモアの人々の生活を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ウム料理の写真 ◎調理道具の写真 ◎児童生徒の食についての写真 ◎ウム料理の映像 ◎ワークシート
5時限目 サモアのごみ事情	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアの美しい海や空などの自然とアピアのゴミの様子の写真を見る。 ・サモアがかかえる問題について考えさせる。 * 国際協力への姿勢や問題解決への姿勢を養うきっかけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎サモアの美しい映像・写真 ◎サモアのペットボトル
6時限目 サモアのごみ処理	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とサモアのレジ袋を比べる。 ・サモアのごみ処理の方法や処理施設について知る。 ・JICAの活動について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎Tafaigata ゴミ処理施設写真 ◎土に返るレジ袋・エコバック
7時限目 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・サモアについて学んだことを通して、自分の考えが変わったところや、自分たちができることを考えるきっかけとする。 	

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアってどんな国？」

■目標

サモアの生活を想像し、日本と比べることにより、サモアの概要を知る。

■内容

- ① サモアはどんな国か想像する。
- ② サモアの位置を確認し、面積・人口などを知る。
- ③ カードを使い、サモアと日本の違いを考える。



<ココがポイント>

- ・カードをサモアと日本に分ける。
- ・カードの裏はサモア・日本の地図のパズルになっている。

- ④ サモアと日本の違いに目を向け、サモアの概要を知る。
 - ・ファレ ・ラバラバ ・食事 ・バス
 - ・クリーンステーション ・学校 ・大切な行事 など
- ⑤ サモアと日本とのつながりについて知る。
- ⑥ 考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。

◎児童の反応

写真に表れる青い海と空に、歓声を上げていた。「サモアのこと？日本のこと？」とカードで分けることを通して日本を客観的にみるきっかけとなったようである。窓のない家の造りやバスで人をひざに乗せることなど、日本ではあり得ない事実に変驚き、サモアに大変興味をもったようだった。

◎児童の感想

- ・サモアの方は、人と力を合わせて暮らしていて、すごくおもしろかったです。サモアの方は優しいと思いました。
- ・まずしい国だと思っていたが、笑顔で心やさしい国だった。
- ・サンダルや車など、日本とサモアがつながっていたことにびっくりした。
- ・自分が思っていたサモアのイメージとはちがっていたので、びっくりした。これからは、自分の考えたことばかりで決めつけず、ちゃんと見て確かめることが大切だと思った。

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| * 混んだバスに乗っても必ず、すわります。 | * きん肉をきたえる男の人がいます。 |
| * 休みの日には友達と遊んだり、買い物に行ったりします。 | * ホールにすわってみんなで歌を歌います。 |
| * あぐらをかいてすわるとおこられることがあります。 | * 混んだバスではお年よりに席をゆずって立ちます。 |
| * ごはんは親とつしよに食べません。 | * クリスマスは、1年で一番大切な行事です。 |
| * 星空を見るのが好きです。 | * スカートをはく男の人がいます。 |
| * うちには、まどがありません。 | |

サモア？日本？どっちクイズ



バスには絶対に座ります。



サモア人がみい〜んなはいる
吉田サンダル

日本とのつながり

2時限目 「サモアのお友達」

■目標

ホームステイ先の子どもたちの様子や、サモアの学校での児童生徒の様子を知ることにより、サモアを身近に感じる。

■内容

① ホームステイ先の子どもたちの様子を知る。



<ココがポイント>

- ・ クラスのマスコットを手にしてほほえむサモアの子どもたちの写真を提示することで、サモアをより身近に感じることができる。
- ・ 小さな兄弟を世話する様子を見て、自分たちのくらしを振り返るきっかけとする。



ホームステイ先の子どもたち

② Primary・Secondaryの児童生徒の授業風景を知る。

③ 教師が活動している様子や、自分たちが学んだ資料を使って活動している様子を見て、サモアの子どもたちを身近に感じる。



<ココがポイント>

- ・ 1学期に社会の授業で活用し教室に掲示してあった資料を使った現地での授業の様子をみて、自分たちとのつながりを感じることができる。



ゴミについての授業

④ 考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。

◎児童の反応

教室のマスコットがサモアの子どもたちを身近な存在にしてくれた。ホールに整然とならぶ児童生徒の様子や設備環境の悪い学校で一生懸命学んでいる様子などから、自分たちのくらしを見つめ直すことができた。

◎児童の感想

- ・ 学校の旗をおろすとき、鐘がなったら生徒達が止まる（姿勢を正す）なんてびっくりした。
- ・ サモアの学校のかべや天井がぼろぼろで、今にもつぶれそうだった。
- ・ 先生にムチでしばかれるのでこわいと思いました。
- ・ 日本はサモアのために、いろいろなことをしていました。ボランティア活動したり、学校を作るのに協力していたり、すごいなあと思いました。



Vaimea 小学校の子ども達

3 時限目 「サモアの文化」

■目標

サモアの「ものランゲージ」を通して、カバの儀式などの文化を知る。

■内容

- ① グループごとに、与えられたサモアの「もの」について考え、何に使う「もの」なのか話し合い、全体で発表し合う。



<ココがポイント>

・「カバの儀式でマタイが使う道具」「カバを飲むココナッツのカップ」「木製の楽器」「ココナッツの皮の繊維」「ココナッツの繊維を束にしたもの」「バナナの皮のボール」

注) 「マタイ制度」サモアの伝統的な社会構造。日常生活・儀式・経済的なこと等すべての権限を持つ大家族の長。
「カバの儀式」歓迎やマタイ会議を始める時に執り行う神聖な儀式。カバの木の粉を水に溶かしたものを飲む。

- ② サモアのマタイ制度について知る。
- ③ 映像や写真を見ながら、カバの儀式などとその意味を知る。
- ④ サモアの「もの」が、どう使われているか知る。
- ⑤ フィアフィアダンスやタトゥー、ビンゴ大会などその他のサモアの文化や日常について知る。
- ⑥ サモアの文化を通して、日本との違いを考える。
- ⑦ 考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。



「もの」ランゲージ



<ココがポイント>

・写真を見ながら、サモアの「もの」が何なのか答えを見つけていく。全くの異文化の中で使われる道具と、想像とのギャップが大きく、サモアの文化に興味関心を持たせることができる。

◎児童の反応

五感を働かせて、一生懸命考え、一人ひとりが自分の考えを持つことができた。写真の中から正解がわかるたびに驚きの声が上がっていた。「実物」の持つ力はすごいと感じた。特にカバ儀式の映像はとても興味深かったようだ。

◎児童の感想

- ・サモアの「もの」が考えと全然違って、びっくりした。
- ・サモアの文化は日本と全然違うと思った。でも人をもてなす心は同じだと思った。
- ・日本ではない道具を使っていた。ココナッツやバナナなどの皮もいろんな使い方をしていて、すごいなあと思った。
- ・悪いことをしたら、マタイの会議で話し合っバツを決められるのでびっくりした。
- ・サモアの人たちは恵まれてはいないけど、とても楽しそうなくらしをしているな。

4 時限目 「サモアの食文化」

■目標

サモアの「フォトランゲージ」を通して、サモアの伝統的なウム料理について知り、地産地消であり、無駄のないサモアの食文化について考える。

■内容

- ① グループごとに、与えられた道具の「写真」について考え、何に使う「もの」なのか話し合い、全体で発表し合う。
- ② サモアのウム料理について知る。
- ③ 食を通して、日本との違いに気づき、サモアの良さを考える。



<ココがポイント>

- ・「食事の時の手洗い用洗面器」「ココナッツの実を削る時に座る椅子」「空き缶を利用した皮むき器」「卵パックを利用した教材」の写真を使う。
- ・食文化の違いが調理器具や食事の時に使う「もの」に表れていることに気づくことができる。



グループでの話し合い

- ④ 考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。

◎児童の反応

写真の周りの様子や前時までに学習してきたサモアの知識を生かしながら、いろいろな想像をしていた。サモアの文化を理解できている理由を添えた意見も出てきた。

「空き缶を利用した皮むき器」鶏を殺す道具・果物をつぶす道具
「食事の時の手洗い用洗面器」ココナッツの汁を入れる皿
「ココナッツの実を削る時に座る椅子」マタイがのる椅子 など



グループ代表の発表

◎児童の感想

- ・朝ご飯にカップラーメン、それが、ごちそうだとはびっくり。
- ・サモアは食べ物をすごく大切にしているなあと思った。
- ・サモアの人、バナナやココナッツの皮などその辺にある葉っぱを使って料理しているから、とってもエコだなあと思った。缶をピーラーにするなんてサモアのリユースにびっくりした。
- ・「食べる」ことは豚や鶏の命をいただくという「食」の大切さがわかりました。

5時限目 「サモアのごみ事情」

■目標

サモアの町のごみの様子から、サモアがかかえる問題を考える。

■内容

- ① サモアの美しい空、海、自然を知る。
- ② サモアのごみの実態写真を見て、グループで気づいたことを話し合う。
- ③ サモアはこれからどうなっていくか、想像し、サモアがかかえる問題を考える。



いたるところに投棄されたごみ



<ココがポイント>

- ・美しく自然豊かなサモアに、ごみの投棄があるわけがないと思うであろう児童の思考に揺さぶりをかけることで、サモアがかかえる問題をクローズアップする。

◎児童の反応

- ・本時まで、文化や地産地消のくらし等を学んだ上で「美しいサモア」の様子を確認した。実際のごみの様子を見て、ごみが分別されていないことに驚き、さらに町のいたる所に投棄されているごみの様子に衝撃を受けていた。ごみ回収にこない行政の問題・サモアの人々の意識の問題だ、という意見が出た。サモアの人々に伝えたい・教えたいという声が上がった。

◎児童の感想

- ・自然を道具にしたり利用したりして生活しているのに、残念です。
- ・自分達で気づく力をもってほしい。サモアはこれから変われると思う。
- ・ごみが減らせるように、分別などを今すぐにでも教えたい。きれいなサモアでいてほしい。

6時限目 「サモアのごみ処理」

■目標

サモアのレジ袋を通して、サモアのごみ処理方法や日本の関わりについて知る。

■内容

- ① サモアのレジ袋になんと書かれているのか想像する。
- ② 日本とサモアのレジ袋を比べて、気づいたことを話し合う。
- ③ サモアのごみ処理方法やごみ処理施設について知る。
- ④ ごみ処理施設と日本の関わりについて知る。



<ココがポイント>

- ・レジ袋の表記内容の違いから、ごみ処理方法が日本と全く違うことを知らせ、またそのわけを考えることにより、日本とのつながりに気づかせる。



サモアのレジ袋

- ⑤ 考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。

◎児童の反応

- ・本時まで日本のレジ袋に書かれている内容を調べて話し合いをしていたので、多様な意見が出た。葉の模様や緑一色の図柄から、サモアのきれいな自然を守ろうと書かれているのではないかと想像していた。日本のレジ袋と同じく注意事項が書かれていて、「180」と書いてあるから重さ制限があるという意見も出て、大変おもしろかった。

◎児童の感想

- ・サモアのレジ袋は180日で土に返りはじめるので環境に優しいと思いました。サモアもがんばっていると思いました。
- ・日本人がごみ処理方法を教えて、サモアは日本と深い関係があるのだとわかった。
- ・日本人が、サモアがきたなくなるのを止めようとしているのでよかった。
- ・レジ袋が土に返るように作られていて、日本もまねしたいなと思いました。

7時限目 「まとめ」**■目標**

サモアについての学習を振り返り、これからの生活に生かせることや、自分達ができることを考える。

■内容

- ① サモアの子ども達の様子や文化・環境などの写真や映像を見る。
- ② 前時までの学習を振り返り、サモアの学習を通して考えが変わったところや、気がついたことを話し合う。

◎児童の感想

- ・サモアはごみでいっぱい大丈夫かなと思っていたけど、ごみ処理の勉強をして少し安心しました。日本が関わっていて、日本はサモアとつながっているんだなあと思いました。
- ・日本もサモアのようなレジ袋にしたら、環境によい国になるのではないかと思います。でもサモアにはごみの分別を伝えたいなと思いました。ごみのことをいろいろ教えてあげたい。
- ・レジ袋を知り、サモアは自分達の手で変えようとしているからすごいと思った。サモアはすごくやさしい国で、勇気を持っていることをあらためて知った。

◎所感

私を感じたことをいかに伝えるか、資料づくりにはとても苦労した。事前研修等で学んだことがとても参考になり、いろいろな手法をクラスや学年の実態に応じてアレンジして使った。7時間の計画にしていたため、ほとんど学年全体で授業実践となった。グループでは一人ひとりが意見を出し、代表が発表したけど、全体の話し合いではたくさんの児童の意見を取り上げるのが難しかった。しかし、毎時書かせた感想には個々の考えがしっかり表れていた。

3. 成果と課題

総合的な学習の小単元としての本単元が、探求を深める大きな存在となった。

授業では毎時間、ものや写真・文化などを紹介しながら、グループで想像したり考えたりする時間を作った。サモアの子ども達がクラスのマスコットや担任といっしょに、また自分達が描いた絵を持って笑顔で写っている写真を見て、サモアの国を身近に感じ、心を寄せていくことができた。資料を提示し、互いの考えを伝え合い、想像をふくらませた後で事実を知らせることにより、そのギャップに驚き、理解が深まったようである。前時に学んだことが、次時の資料についての話し合いに表れ、違いを考えることから異文化を感じとっていることを実感することができた。目が合うと必ずにっこり笑顔が返ってくることや、ホームステイや学校・施設訪問など、サモア滞在中に私を感じとったことを話すことで、児童がサモアの人々の優しさを感じ、サモアを好きになり、力になりたいという思いも生まれたと思う。また、JICA や青年海外協力隊の活動を通して、日本とのつながりや日本の支援を知った子ども達が、世界の国々に目を向け国際協力について考えるきっかけにもなったであろう。これらの意識の芽生えを大切に、これからの活動にどうつなげていくかを今後の課題にしていきたい。

参考資料

- | | |
|---------------------|----------------|
| ・参考文献 「地球家族」 TOTO出版 | 「地球の食卓」 TOTO出版 |
|---------------------|----------------|